

研究協力をお願い

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

上腕骨小頭離断性骨軟骨炎病変部不安定症例における前腕回内屈筋群筋面積の検討

1．研究の対象および研究対象期間

2016年1月1日から2023年3月31日までに昭和大学藤が丘リハビリテーション病院整形外科で上腕骨小頭離断性骨軟骨炎の診断を受けた患者さん

2．研究目的・方法

上腕骨小頭離断性骨軟骨炎（Osteochondritis Dissecans of Capitellum 以下、OCD）は成長期野球選手に発症する投球障害肘の一つであり、近年注目されている疾患です。OCDの治療方針は病変部が安定しているか、不安定な状態かで異なります。病変部が安定つまり発症早期の症例は保存療法、病変部が不安定つまり発症晚期の症例は手術療法が選択されます。両者とも再発予防の機能評価・訓練を行います。病変部不安定症例では手術療法に至るほどの変化があったことを踏まえると肘関節により大きなストレスが長期間にわたり生じていたことが推測されます。この段階の病変部安定症例と不安定症例それぞれの身体機能の特徴や違いを把握することは、OCDの病態の理解や治療戦略を検討する上で重要と考えております。

OCD病変部不安定症例では肩甲骨周囲の筋力低下があると報告されていますが、肘関節へのストレスを軽減させるためには肩甲骨周囲筋だけでなく、前腕回内屈筋群の機能も必要となります。また、筋機能の指標の一つとして用いられるのが筋面積であり、MRI画像から筋面積は測定できます。しかし、これまでの研究ではOCD病変部不安定症例の前腕回内屈筋群の筋面積を検討した報告はありません。

そこで本研究の目的はOCD病変部安定症例と不安定症例の前腕回内屈筋群の筋面積を比較し、病変部不安定症例の前腕回内屈筋群の筋面積の特徴を検討することとしました。

調査項目は4項に記載した情報を収集していきます。

3．研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから2024年3月31日まで

4．研究に用いる試料・情報の種類

2019年4月1日から2023年3月31日までに昭和大学藤が丘リハビリテーション病院整形外科でOCDと診断された患者さんの診療録の中から、病変部軟骨下骨の状態(CT画像をから評価できる西中分類)、患者背景(年齢、性別、身長、体重、既往歴、現病歴)および円回内筋面積、浅指屈筋面積、尺側手根屈筋面積(MRI画像から測定)を調査項目とします。

5．外部への試料・情報の提供

該当いたしません

6．研究組織

該当いたしません

7．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学藤が丘リハビリテーション病院リハビリテーションセンター

氏名：阿蘇卓也

住所：神奈川県横浜市青葉区藤が丘2丁目1番1号

電話番号：045-974-2221/3635(内線)